

10. 令和7年度 千葉県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

千葉県循環器病センター 脳神経外科 青柳 京子

まとめ

令和7年度も千葉県循環器病センターは千葉県てんかん支援拠点病院に指定され、てんかん地域診療連携体制整備事業は6年目を迎えた。WEB研修会や市民公開講座の開催を通じた啓発活動に加え、症例検討会の参加者数・参加施設数の増加、外来患者数や手術件数の増加など、昨年度を上回る成果を上げることができた。また、東邦大学医療センター佐倉病院小児科および浅井病院精神科からの紹介症例のうち、手術に至る症例や、周術期の精神症状に関して浅井病院に診療を依頼する症例が増加し、連携体制の構築による成果が実感された1年となった。

1. 診療に関する事業

1) 診療実績

令和6年度以降、脳神経外科医の異動により人員不足の状態での診療体制となり、診療実績が半減することが危惧されたが、集計時点では各指標とも今年度目標値を上回る見込みである。特に外科手術に関しては、SEEGや難治性てんかんに対する脳深部刺激療法（ANT-DBS）など低侵襲手術が増加しており、治療件数自体も前年と比較し増加している。

2) 診療連携・患者支援に向けての取り組み

昨年度から社会福祉士・精神保健福祉士の資格を持ったコーディネーターが加わり2名体制で患者相談に対応し、福祉制度活用のための案内や地域の支援者との連携を行った。外科治療を受ける患者の心理・社会面での支援のために外来から入院まで継続した面談を行い、外来・病棟看護師と連携しながら患者および家族の支援をおこなった。電話相談業務においては引き続き、行政や学校関係者からの相談にも対応し、受診につながる支援をした。てんかんを持つことにより心理的な負担を感じている患者・家族のために、今年度作成したメンタルヘルスに関するパンフレットを用いて心理教育を行っている。顔の見える関係の構築を目的とし、コーディネーターが地域のソーシャルワーカーの連絡協議会に積極的に参加した。

3) 多職種・多施設によるてんかん症例検討会開催

平成30年のてんかんセンター設置以来、院内の多職種（脳神経外科医・精神科医・脳神経内科医・看護師（看護局・病棟・外来・手術室）・薬剤師・栄養士・社会福祉士・言語聴覚士・理学療法士・放射線技師・臨床検査技師・事務局）による症例検討会を開催し、診断・治療のみならず、家族背景への配慮や社会福祉資源の活用も含めた検討を重ねてきた。令和2年度よりZoomを用いたオンラインカンファレンスを導入し、多くの施設の多職種の参加者にご参加いただき、各症例についてより活発な議論がなされた。（現在 院内 27名、院外 39名が参加登録）

表1 症例検討会参加者

施設名	医師（診療科）	コメディカル
千葉県循環器病センター	脳神経外科、脳神経内科、精神科	看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、放射線技師、社会福祉士、公認心理師、言語聴覚士、作業療法士、事務
浅井病院	精神科	社会福祉士、精神保健福祉士、臨床検査技師、看護師
東邦大学医療センター佐倉病院	小児科、精神科	
千葉大学医学部附属病院	小児科、脳神経外科	臨床検査技師
行徳総合病院	脳神経外科	言語聴覚士、公認心理師、薬剤師、臨床検査技師
国際医療福祉大学成田病院	脳神経内科、精神科	
亀田クリニック	精神科	
セコメディック病院	脳神経外科	
高根病院		臨床検査技師

千葉県こども病院	小児科	
成田赤十字病院	脳神経外科	
産業医科大学	脳神経外科	

4) 外来医師派遣・オンライン診療導入

てんかんは有病率の高い疾患であるにもかかわらず専門医療へのアクセスが困難であることが課題となっている。一般の脳外科医・神経内科医・精神科医で診断・治療に難渋する症例は当院への紹介を勧めているが、当院の交通アクセスが不良であることから患者が受診を希望しないという現状もある。このため、千葉大学医学部附属病院にててんかん専門外来を開設している。同様に遠方からの通院患者に対しオンライン診療を用いて頻りに外来受診を行うことで、服薬コンプライアンスの向上と適切な薬剤コントロールを図るべく、令和3年4月よりオンライン診療システムを導入した。

2. 教育・啓発活動に関する事業

1) ホームページ開設

令和2年4月に病院ホームページ内に脳神経外科から独立しててんかんセンターのホームページを開設し、てんかんセンター、てんかんの診断や治療についての情報を掲載した。下記3)のパンフレットのPDF掲載や研修会案内を適宜アップロードしたところ、アクセス数が増加した。また、患者・患者家族が自身でホームページの情報を検索し、専門診療問い合わせや新規外来紹介受診につながる例も多数みられ、外来患者数の増加に寄与した。

2) 研修会・公開講座開催

今年度4回の研修のうち10月および1月開催の市民公開講座は現地開催とWEB開催のハイブリッド開催とした。第1回市民公開講座は、千葉県循環器病センターで現地開催し「私たちにとってのてんかん」をテーマとした。日本てんかん協会会長の梅本里美様をお招きし、当事者としての経験や思いなどをご講演いただいた。また、令和8年1月24日の第2回市民公開講座は「自分と家族のために」をテーマとして千葉ペリエホールでの開催し、現地・オンライン合わせて167名にご参加いただき、活発な質疑応答が行われた。またWEB研修会は、第1回は医療関係者を対象とし臨床現場で応用される生理検査や画像検査について、第2回は教育・福祉関係者を対象に診療連携をテーマとして取り上げた。来年度以降、同様の企画を継続する予定である。

表2 R7年度研修会・公開講座開催実績

研修区分	日付	テーマ	参加人数
医療関係者向け研修会	令和7年6月14日	なんとかなる?なんとかしよう!てんかんプライマリケア<ステップ6>きっと身に付く!てんかん臨床の基本:診療現場のノウハウから	60名
市民公開講座	令和7年10月25日	てんかんを知ろう!その5: 私たちにとってのてんかん ~当事者の思いが伝わる医療を目指して~	60名
教育・福祉関係者向け研修会	令和7年12月6日	なんとかなる?なんとかしよう!てんかんプライマリケア<ステップ7>どんな時に、どんな支援がつながる?	50名
市民公開講座	令和8年1月24日	てんかんを知ろう!その6: 自分と家族のために ~知っておこう、てんかんの正しい知識~	167名

